



子どもの虐待防止学会は ネグレクト 児童養護施設の子どもたちを虐待しないで

★児童養護施設の性暴力の被害児・加害児は、年間推定 2,158 名以上！？

平成25年7月23日、三重県名張市の児童養護施設「名張養護学園」に入所していた女の子（7歳）が、施設内で男の子（13歳）から強制わいせつ行為をされたのは、施設が監護を怠ったためとして、女の子の母親が三重県と加害男児とその実母を被告として、約660万円の損害賠償請求裁判を起しました。

裁判では、“三重県内の児童福祉施設における性的問題を伴う事故報告”が明らかにされました。その事故報告によると、平成20年度～平成24年度の5年間で51件延べ144名もの児童間の性的事故が発生していることが判明しました。その内容は「キス、下着を下す、蒲団にもぐり込む、身体を触る、性器の触りあい、性器をなめる、性器を見せる、性器を写真に撮る、抱き合う、性器接触、性器挿入」などの性的行動を性別・年齢別に一覧表にまとめたもので、裁判になった事例も含まれていました。2歳から19歳まで全ての年齢で、同性間・異性間の性暴力がありました。

三重県の入所児童数は358名（H29年3月）ですから、5年間で40.2%（年8.0%）の児童が被害児・加害児となっています。全国の児童養護施設で同じ割合で起きているとしたら、毎年26,459名（H29年3月）の施設入所児童のうち、8.0%にあたる2,036名以上が被害児・加害児となっていると推定されます。これは発覚した性的事故による推定で、氷山の一角だと思われるので、潜在化している性暴力は数倍になると考えられる、恐ろしい状況です。

★ある児童養護施設の出身者の語る児童養護施設の現状

三重県の性的事故報告の内容は、決して三重県だけの問題ではありません。全国の児童養護施設で起きています。これは、三重県ではない、ある自治体の児童養護施設の出身者の話です。

- 野球の練習を強制的に毎日参加させられ、バッターボックスに立たされ、硬式ボールを一斉に投げ、的あてになり、顔面強打、出血、目に痣ができ、眼帯、1週間以上の治療を負わされた。
- 野球倉庫に入れと脅され、入ったら外から鍵をかけられ、1時間以上監禁された。
- 雨の日はホールステージに上げられ、集団で容赦無くボールをぶつけられ、的あてにされた。大泣きしたらボコボコにされ、ステージの上から落とされ、腕の骨にヒビが入った。
- 鬼ごっこという名のエアガン打ち大会があった。小さい子が逃げる役で、高校生たちが強力に改造されたエアガンで、逃げる小さい子を容赦無く打ってきた。全身水ぶくれになった。
- 性的虐待も慢性化していた。「女の子（小学5年生）を呼んで来い」と脅され、「呼んでこなかったらお前をボコボコにする。職員が来ないように監視しろ」と言われた。その子を全裸にし、男の子たちで囲みスケッチをさせられた。泣きながら描く男の子もいた。スケッチが終わるとその高校生と女の子は押入れの中に入り、性行為を行った。
- ある高校生は男子トイレに女の子（小学5年生）を呼ぶようにいい、トイレの前で監視するようにいい、トイレの中の会話では、「俺の性器をしゃぶれ」という声が聞こえてきた。女の子は泣きながら高校生の言う通りにしていた。
- いつ集合という声がかかるかわからないので、夜も眠ることが出来なくなった。
- 高校生のお金や物がなくなると、小学生・中学生の連帯責任になり、おこずかいを奪われ、犯人が出るまで寝させないと言われ、朝までボコボコにされ続けられた。
- 中学生になると、同性の性的虐待もあった。高校生に部屋に呼ばれ、裸になるよう言われ、抵抗したが脱がされた。言われた通りにしないと、意識がなくなるまでボコボコにすると脅され、言うとおりに性的なことをさせられた。
- 子どもの虐待防止法ができたら、職員は子どもたちを暴力で抑えられなくなり、今まで殴られていた仕返しに、子どもたちが職員を殴るようになった。
- 高校生のボスが、指導員をボコボコにし、「おまえ、明日までに辞めろ。辞めなかったら殺すぞ」と脅した。指導員は翌日から来なくなった。
- 「暴力を振るわれた・性虐待を受けた」と職員にチクルと、「お前をさらにボコボコにしてやる」という暗黙の了解があった。これは、園の”伝統”となって、代々高校生に引き継がれていた。

★児童養護施設の子ども間暴力・性暴力は全国で起きています

これは東京都の公立の児童養護施設です。本人は施設名を出して告発したいと言っています。男ですが、同性の性暴力のトラウマで、男に恐怖心を持ち、密室にいると過呼吸になります。決してLGBTではありません。

- 児童養護施設対抗野球大会で負けたら、「お前のせいで負けた」と集団リンチされ、裸にされて、全員から小便をかけられた。
- 小学4年生のとき、個室に呼び出され、指導員が下半身裸になり、性器を射精するまで握らされた。
- 上級生が「お前は誰とタイマンやる？」と聞かれ、自分より弱い子の名前をあげたら「お前は、自分よりも弱いやつしかケンカできない卑怯者だ」とボコボコにされた。
- 上級生から女の子を呼び出すようにいわれ、呼び出したら、その子を上級生5～6人で輪姦した。「お前もやれ」といわれて、断ったらボコボコにされた。
- 同室の上級生から裸になるようにいわれ、性器をなめさせられた。そのあと肛門性交された。1年間続いた。ある時、思いっきり上級生の性器にかみついたら、性暴力は終わったが、毎日のように殴られた。
- 高校を退学した卒園生（ハグレ）がやってきて、児童養護施設の中を我が物顔で歩き、ラジカセなどを盗っていくので、中学生がバットを手にハグレ自警団を作って追い出した。
- 高校の通学電車で男の人に囲まれるとフラッシュバックが起き、身体が硬直し、電車を降りて吐いた。満員電車に乗れなくなった。同性と同室したり、一緒に風呂に入るのは、恐怖でパニックになる。
- 児童養護施設を出た後、PTSDを発症し、働けなくなり、精神病院に入院した。

★児童養護施設の子ども間暴力・性暴力を予防・早期発見する「安全委員会方式」

このような、児童養護施設の現状を知った九州大学大学院田嶋教授（当時）により、児童養護施設における全ての暴力を根絶する「安全委員会方式」という仕組みが考案されました。

職員だけでなく、子どもたちすべてが安全委員会に参加し、「施設内のすべての暴力（性暴力を含む）をなくす」ことを宣言します。安全委員会委員には、児童相談所長・学校長・施設長がなり、毎月、子どもたちに暴力（性暴力含む）を受けていないか聞き取りをします。暴力を受けていることがわかったら、その子を呼びだし厳重注意をします。子どもたちは、暴力を受けても訴えれば守ってくれることを学び、「殴る前に、言葉で言おう」を合言葉に、暴力ではなく、言葉で気持ちを表現することができるようになります。親からの虐待を暴力ととらえ、言葉で表出できる子どもも出てきました。毎月の聞き取りでも、性暴力被害を訴える子は少なく、7回目の聞き取りで訴えた子どももいました。その内容は、前述の例に劣らない性暴力被害もありました。

安全委員会を導入した施設では、「安全委員会があつてよかった」「安全委員会のおかげで殴られなくなった」と、導入する前の状態を知っている子どもたちが、感謝の言葉を口にしています。

本当は、導入以前には安全安心の環境を提供できなかった施設職員と児相職員が、子どもたちに謝罪をすべきで、子どもたちがお礼を言うのは変なのですが…。

★「安全委員会方式」を妨害し、施設の子どもをネグレクトする「日本子どもの虐待防止学会」

そんな実績を上げている「安全委員会方式」ですが、子どもの虐待防止学会理事は、「安全委員会方式」への妨害発言を繰り返してきました。2017年の千葉大会では、「安全委員会方式」のシンポジウム企画に横槍を入れ、つぶしました。かつて、恩籠園（千葉県）の児童虐待から逃げましたが、いまでも子ども間暴力・性暴力から逃げています。

おかげで、権威に弱い児童相談所長や児童養護施設長たちは、児童養護施設の子ども間暴力・性暴力があることを知り、有効な対策を講じることができないにもかかわらず、導入することをためらっています。妄言を信じ、自分の頭で真実を見極められず、子ども間暴力・性暴力を放置する、子どもの味方となれない方たちです。

いまもなお、暴力・性暴力に苦しんでいる児童養護施設の子どもたちを見捨てる施設長や児童相談所の公務員・研究者の姿は、あまりにも醜いです。

子どもの虐待防止学会の妨害にもかかわらず、児童養護施設で子ども間暴力・性暴力が一件でも起きてはいけなく、導入に踏み切った施設が30か所弱あります。導入して1年も経つと、暴力がなくなり、子どもたちは笑顔になり、上級生がそばにいても、怯えることはなくなりました。子どもの虐待防止学会の妨害に負けずに導入した、心ある施設長と児童相談所長に敬意を表します。子どもの味方とは、子どもに寄り添う大人とはこのような方たちです。

三重県の年間の性暴力数の割合から全国の数字を推測すると、性暴力被害を受ける子どもが、毎年2,158名以上いると思われます。取り組みが遅れば遅れるほど、被害数が増えていきます。安全委員会が提案されてから10年。その10年間にどれほどの子どもが、性暴力被害にあったのでしょうか。そして、これからも増え続けるのでしょうか。

子どもの虐待防止学会は、児童養護施設の子どもたちを虐待（ネグレクト）しないで、児童養護施設の子どもたちを助けてください。児童養護施設で受けた性暴力のトラウマで苦しんでいる、かつての子どもたちからのお願いです。

2017年12月16日

施設内虐待を許さない会

E-mail STOP@yogo-shisetsu.info

施設内虐待を許さない会の前身は、児童養護施設「恩籠園」の虐待事件の解決のために結成された市民団体「恩籠園の子どもたちを支える会」です。全ての児童養護施設の虐待防止のために名称を変え、活動を続けています。

